

# 「バンク・ジョブ」

★★★★

2008（平成20）年11月5日鑑賞<AGA試写室>

監督：ロジャー・ドナルドソン  
 テリー・レザー（中古車屋経営）／ジェイソン・ステイサム  
 マルティーン・ラヴ（モデルの女性）／サフロン・パロウズ  
 ケヴィン・スウェイン（自称カメラマン、実行犯の1人）／スティーブン・キャンベル・ムーア  
 デイヴ・シリング（映画エキストラ、実行犯の1人）／ダニエル・メイズ  
 ガイ・シンガー（詐欺師、実行犯の1人）／ジェームズ・フォークナー  
 パンパス（掘削の専門家、実行犯の1人）／アルキ・デヴィッド  
 エディ・パートン（店の従業員、実行犯の1人）／マイケル・ジブソン  
 ティム・エヴェレット（特務機関MI-5所属）／リチャード・リントーン  
 マイルス・アークハート（ティムの上司）／ピーター・ボウルズ  
 フィリップ・リスル（ティムの上司）／アリスティア・ペトリー  
 ジェラルド・パイク（汚職警察官）／ドン・ギャラガー  
 マイケルX（エセ左翼黒人活動家、ヤクの売人）／ピーター・デ・ジャージー  
 ルー・ヴォーゲル（ロンドン裏社会の顔役）／デヴィッド・スーシェ  
 ウェンディ・レザー（テリーの妻）／キーリー・ボウズ  
 2008年・イギリス映画・110分  
 配給／ムービーアイ

## <ここにも英国王室のスキャンダルが>

イギリス王室にはダイアナ妃やチャールズ皇太子をはじめとて多くのスキャンダルがあるが、この映画で問題となる王女マーガレットがリゾート地で乱交パーティーをしているところを隠し撮りされたというスキャンダルはそりゃひどいもの。

そんなスキャンダルまみれのイギリス王室に比べれば、日本の皇室は一貫してまともなものだったが、近時の「雅子さま騒動」はちょっとした事件？

このように日本でもいよいよ皇室スキャンダルの芽がささやかれている昨今、この映画は1970年代に英国で実際に起きた王室スキャンダルをめぐる「封印された英国史上最大の銀行強盗事件」を描いたものらしい。こりゃ、面白そう。何をさておいても観なければ・・・。

## <なぜ、マルティーンが銀行強盗計画を？>

この映画を観れば、「007」の国イギリスには、MI-5という特務機関があることがわかる。これはイギリス国内の治安維持に責任を有する情報機関であるイギリス情報局保安部の中にある、Military Intelligence < section > 5（軍情報部第5課）のこと。

謎めいた雰囲気的美女マルティーン（サフロン・パロウズ）はモロッコからの帰りに麻薬密輸がバレたため、空港で逮捕されたが、MI-5のティム・エヴェレット（リチャード・リントーン）の口利きによって無罪放免に。こりゃ一体なぜ？何か交換条件があるのでは？マルティーンがそう勘ぐったのは当然だが、上司であるアークハート（ピーター・ボウルズ）とリスル（アリスティア・ペトリー）の命を受けたティムの要求は、マルティーンの予想をはるかに超えたものだった。つまりそれは、政府とは一切無関係なメンバーによってロイズ銀行の地下金庫から秘密裏にある写真を奪取することを命じたものだった。

その写真こそ、マイケルX（ピーター・デ・ジャージー）によって盗撮されたマーガレット王女の乱交パーティーの写真。つまり、何としてもこれを世間の目から封じ込めることがMI-5の特殊任務というわけだ。

そして、そんな極秘裏の命令を受けたマルティーンが相談を持ち込んだ男こそ、今はイースト・ロンドンで中古車屋を営む中年男テリー（ジェイソン・ステイサム）だ。

## <ジェイソン・ステイサムがアクションを封印して・・・>

ジェイソン・ステイサムといえば、『トランスポーター』（02年）、『トランスポーター2』（05年）、『トランスポーター3』や『ミニミニ大作戦』（03年）、『アドレナリン』（06年）等でみせるアクションが売りモノのイギリス人俳優。ところが、彼はこの映画では得意のアクションをラストのホンの少しだけに封印し、かつて裏社会の片隅に身を置きながら、今は中古車屋を営む中年男をクールに演じている。もっとも、連日借金取りが取り立てに来ている様子を見ると、中古車屋の経営は必ずしも順調ではないようだが、妻のウェンディ（キーリー・ボウズ）と2人のかわいい娘のために何とか頑張っていた。

そこに持ち込まれたのがマルティーンからの「一生に一度のチャンスよ。逃しちゃだめ」というすごい話。テリーは「考えさせてくれ」と言ってマルティーンと別れたが、ホントはこの時点でテリーの腹は固まっていたのでは？

## <イギリス版『七人の侍』は？紅一点は？>

黒澤明監督の『七人の侍』（54年）は『荒野の七人』（60年）としてハリウッドでリメイクされたが、それとは全く別の視点で中国映画にも『SEVEN SWORDS セブンソード（七剣）』（05年）という面白い映画があった（『シネマルーム17』114頁参照）。

『バンク・ジョブ』はもちろん『七人の侍』の系譜を引くものではないが、イギリスのベイカー・ストリートにあるロイズ銀行を襲う「七人の侍」は、主犯格のテリー・レザーの他、次の6人。すなわち、①自称カメラマンのケヴィン（スティーブン・キャンベル・ムーア）、②映画エキストラのデイヴ（ダニエル・メイズ）といった友人たちに加え、③詐欺師のガイ（ジェームズ・フォークナー）、④掘削の専門家パンパス（アルキ・デヴィッド）、⑤店の従業員エディ（マイケル・ジブソン）。そして紅一点はマルティーン。

## <計画実行は地下道掘りによって>

テリーらの計画は、ロイズ銀行近くのハンドバック屋「ル・サック」の内装工事を装って銀行の地下金庫まで地下道を掘ること。『死に花』（04年）で宇津井健たちがやっていたあの手法だ（『シネマルーム4』338頁参照）。

無線連絡がアマチュア無線家に傍受されており、その通報を受けた警察の捜査を何とかかくぐりながら、遂にテリーをボスとする「七人の侍」は地下金庫からスキャンダル写真の他、大量の現金、宝石類、金の延べ板などの強奪に成功し、大喜びだったが・・・。

## <D通告とは？>

政治・軍事の世界における非常事態宣言が「戒厳令」だが、イギリスの報道・言論界におけるそれがD通告（国防機密報道禁止令）。これは、軍事・国防上の機密に触れる事態を封印する特殊法令で、歴史上数回しか発令されていないらしい。

そして、何と1971年9月12日に発生したウォークトキー強盗事件がD通告の対象となり、事件そのものが世の中から消えてしまったというからビックリ！つまりロジャー・ドナルドソン監督は、この映画でウォークトキー強盗事件になぜD通告が発令されたのかという謎を解こうとしたわけだ。なぜ、ウォークトキー強盗事件はD通告が発令されるほどの国家機密になったの？その理由が英王室マーガレット王女のスキャンダル写真だとすれば、誰でもなるほど、なるほどと納得できるところだろう。さて、D通告発令のウラでは、どんな暗闘が？

## <貸金庫には、人間の欲に絡むネタがいっぱい！>

マイケルXが、キング牧師らと対照的なアメリカで最も著名で攻撃的な黒人解放指導者マルコムXをもじった名前であることは明らかだが、彼はエセ左翼黒人活動家でヤクの売人。そんな悪党がムショ送りを免れているのは、彼が盗撮した王室のスキャンダル写真を某銀行の某地下金庫に預けていたから。つまり、「俺を逮捕すれば、あの写真を世間にバラまくぞ」という脅しがまかり通っていたわけだ。

他方、どこの国でも、いつの時代でも、政府高官や警察上層部には賄賂を要求して権力の甘い汁を吸っている腐った奴がいるもの。ところがそんな腐った奴らも、裏社会の顔役であるルー・ヴォーゲル（デヴィッド・スーシェ）が記した汚職警察官への贈賄記録やMI-5高官と下院議員のSMクラブでの隠し撮り写真が世間に出れば大変。保身に長けたヴォーゲルも、マイケルXと同じように、これらの貴重な資料を某銀行の某地下金庫に預けていたのだった。

このように、貸金庫内には重要書類や現金、宝石類の他、人間の欲に絡むネタがいっぱい。したがって、MI-5のティムの命令を受けてマルティーンがテリーに持ちかけた銀行強盗計画に、さまざまな立場の人間の欲が絡んできたのは当然だ。テリーは愛する妻と2人の娘たちのために、一生に一度のチャンスを生かしタッグリと現ナマを掴もうとしたただけだが、貸金庫の中にはやっかいなネタが含まれていたから、その後大変な目にあうことに。

## <面白さの根源は？>

プレスシートによると、この映画は「本年度最高傑作！」「痛快！面白さ第一級！」「ここ数年の“強奪モノ”ジャンルの最高峰！」などと「英・米有力マスコミ、激賞！」の作品らしい。その面白さの根源は、マフィア、MI-5の高官、下院議員、汚職警察官らと「七人の侍」が入り乱れながら壮烈な駆け引きと闘いをくり広げる点にある。

すなわち、①マイケルXが預けている王女のスキャンダル写真を取り戻したい、ティムを中心とするMI-5、②ヴォーゲルが預けている変態写真を取り戻したい、ティムの上司や下院議員、③同じくヴォーゲルが預けている汚職警察官への贈賄記録を取り戻したい汚職警察官であるジェラルド・パイク（ドン・ギャラガー）らの勢力と、ロイズ銀行から現金、宝石類と共にこれらの貴重なネタを強奪したテリーたち「七人の侍」は、以降否応なく、スリル満点の駆け引きと闘いを展開することに。

多くの人物が登場してくるため、その立場とキャラをきちんと整理するのが大変だが、こりゃ面白いのは当然。特に後半からラストにかけての、手に汗握る駆け引きのスリルとサスペンスをタッグリと。